

## 令和元年度 附属学校研究支援・特色化にかかわる事業実施報告書

事業の名称	豊かな心をはぐくみ生き方の自覚を促す道德教育の推進 ～思いやりの心を重視した取組の充実～
事業実施代表者名	北海道教育大学附属旭川小学校副校長 米津 理臣
実施附属学校名	北海道教育大学附属旭川小学校
事業内容 (実施内容について、 1,000字程度で記述)	<p>道德性検査（新道德性検査HUMAN BEING：平成30年度変更）を1学期に行うことで、児童の道德性の実態や傾向を客観的に把握し、学校全体や各学年・学級における道德教育、学級経営、そして、児童理解等に活用することにより、以下のような、本校の道德教育研究や教育実践研究の改善等を図るとともに、幼稚園・小学校・中学校全体で考えているグランドデザインの根幹になる児童の実態把握として活用している。</p> <p>1 12年教育 12年教育は、幼稚園・小学校・中学校の12年間を見通し、各学校種間や家庭・地域との連携を図った道德教育の充実も目指しており、子供たちの発達の段階を踏まえた道德性、特に「思いやり」などの重点領域を設定し、幼稚園・小学校・中学校の12年間を見通した思いやりの心の育成を図るに当たり、本道德性検査を活用している。</p> <p>2 教育実践研究 道德教育の実践研究においては、昨年度から変更した本道德検査の結果を活用・反映し、実践を積み重ねている。また、他附属の取組についても研修を深め、本校の道德教育の実践に活用している。</p> <p>3 各学年・学級経営等への活用 本道德検査の結果から、重点となる道德性を捉え、各学年・学級における道德教育の年間計画に反映させ、主に道德科を中心とし、本校の教育活動全体を通して、児童の道德性を養っている。</p>
成果と課題 (活動の成果と課題について、500字程度で記述)	<p>○ 上記、1～3について、本校の教育活動全体を通じた道德教育を積み重ねてきたことにより、3年生以上の全学級において、道德性総合Ⅰの全国平均より5ポイント以上高い状況にある。 また、教師、児童、保護者アンケートにおけるいじめや学校の決まりを守ることに係る項目も大変よい傾向にある。</p> <p>● 上記、1～3の教育活動等を行うことにより、児童は、道德的価値の知識や理解については向上しているが、さらに道德的実践力が十分に養われるよう、事前・事後の活動等と十分に関連させて指導に当たる必要がある。</p>

<p>今後の発展性 (残された課題の解決方策及び取組の方向性について、500字程度で記述)</p>	<p>今後も、継続して道徳性検査の結果を分析したり、他附属等の道徳教育の研究会に参加するなどして、本校の児童の道徳性や道徳的实践力が養われるよう、以下の点について、教育活動全体で取り組む必要があると考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 思いやりの心を具体的に関連付けた新教育課程の編成及び実践</li> <li>○ 事前・事後の活動とのつながりをより意識した授業改善</li> <li>○ 児童の実態に応じた各学年・学級におけるカリキュラム・マネジメントを意識した指導の充実</li> </ul>
<p>事業の公表状況 (事業をHPで公開した場合、又は新聞等に掲載された場合、当該媒体名、掲載日等を記入)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 令和元年11月8日開催「授業力向上セミナー」</li> <li>・令和元年11月 HPで公開</li> </ul>

(注) 当該事業に係る写真等の参考となる資料がある場合は、この事業報告書に添付すること。